

令和 3 年 度
文化アセスメント
実施結果報告書

2022（令和4）年12月

川崎市文化芸術振興会議

令和4年12月2日

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市文化芸術振興会議 会長 垣内 恵美子

令和3年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興条例第8条の規定に基づき、令和3年度の文化アセスメントを実施いたしましたので、結果を御報告いたします。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「第2期川崎市文化芸術振興計画（改訂版）」上の重要な事業を選び、選んだ事業の取組内容について実地に確認を行いながら、事業の目的や文化芸術性、市民との関わり、効率性などについて総合的に検証した上で、本来の事業目的の達成に向けた改善の方向性等について文化政策的提言を行うものです。

令和3年度の文化アセスメントの対象事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による様々な制限や不安などから、文化芸術の公演等への物理的な鑑賞が困難な状況が続くなかで、文化芸術の鑑賞や学びの機会をオンラインにより市民等に提供する「オンライン配信と文化芸術活動」といたしました。

評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々の配信動画を視聴するとともに、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら調査を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

新型コロナウイルスの影響は終息に至りませんが、条例の前文にもあるように、「文化芸術は、今日、市民が人間らしく豊かに暮らすために不可欠のものであり、世界平和の礎を築き、都市生活の質を高める重要な役割を担うとともに、創造的な市民や企業を育て、持続的に発展する都市をつくり出す源となるもの」であり、これまで川崎市が市民とともに積み上げてきた文化芸術活動を決して絶やさず、今後もより発展させていくことで、「個性と魅力が輝き、市民が生き活きと心豊かに暮らせるまちづくり」を進めていくことを願っています。

令和3年度文化アセスメント実施結果報告

1 対象事業及びその選定理由・実施経過

「オンライン配信と文化芸術活動」（文化芸術活動等の各種動画配信事業）

（1）選定理由

本事業は、第2期川崎市文化芸術振興計画（改訂版）の基本目標3施策2「市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供」に該当する事業であり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う様々な制限が続くなかで、文化芸術の鑑賞や学びの機会をオンライン配信により市民等に提供する事業であり、コロナ禍における文化芸術振興の手法としての評価と共に、今後の新たな事業展開の可能性など、今後の更なる文化芸術活動の支援に繋げていくため。

（2）実施経過

①資料確認及び対象動画視聴、事前ヒアリング項目作成

令和3年11月～12月

②事業担当者等ヒアリング

令和4年2月16日 第57回会議

③報告書案の検討、確定

令和4年7月12日 第58回会議

2 評価結果

「オンライン配信と文化芸術活動」（文化芸術活動等の各種動画配信事業） （1）事業の目的・概要

担当課	市民文化局市民文化振興室	
振興計画上の位置づけ	基本目標3	市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備
	施策2	市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供
事業概要	新型コロナウイルス感染症の拡大による様々な制限の中、多くの市民が外出せずに、様々な文化芸術に触れることができるよう、インターネット等を用い、オンラインにより文化芸術活動の動画配信を行うもの。	
目的	コロナ禍の中、物理的な会場参加が難しいなど、文化芸術活動や鑑賞の機会が著しく制限された中でも、文化芸術活動をオンライン動画の配信により継続して発信し、市民に文化芸術に触れる機会を提供する。	

取組（文化芸術活動等の各種動画配信事業）

名称	概要
1 川崎シンフォニーホール管理運営事業	フェスタサマーミュージアのオンライン公演 主要事業である「フェスタサマーミュージア」のオンライン配信を行うことで、コロナ禍で音楽鑑賞の機会が失われている市民等に良質な音楽を提供する (配信視聴回数：約 16,800 回)
2 アートセンター管理運営事業（しんゆりシアター）	①「桜の園～四幕の喜劇～」 ②「劇団わが町第 10 回公演「グスコブドリの伝記」 アルテリオ小劇場の主催事業で、ライブ配信を併せて行い、劇場に来られないお客様の鑑賞機会確保と共に、コロナ禍での事業実施手法を検討する。 (有料オンライン配信視聴者 233 人)
3 文化財団動画配信「～おうちで伝統芸能～」	①ミュートンと行く♪川崎能楽堂探検！ コロナ禍で能楽堂の来場が困難な中、能楽堂及び能楽の紹介動画を通し、能楽堂を知り、能楽に興味を持っていただき、伝統芸能の普及・発展に繋げる。 ②能楽師による解説「第 121 回川崎市定期能事前講座」 定期能(2020.12)のチケット購入者向けに実施した事前講座について、講座当日に来場できない方も、自宅等で動画により観られるように配信を実施 (視聴回数計 842 回 (R3.10.11 日現在))
4 映像のまち・かわさき推進フォーラムオープンセミナー	①コロナ禍での『カワサキハロウィン』と映像の活用事例 ②コロナ禍での映像表現 ③コロナ禍が映画と私たちに遺すもの コロナ禍の中、映像制作や映像を用いたイベントは、形を変え発展しており、映像業界に精通する講師のセミナーの配信やケーブルテレビでの放映により、映像産業の現状と映像の活用事例を中心に、映像の持つ可能性と今後の影響などを、コロナ禍による制約の中でも学んでもらう。 (オンライン配信視聴回数計 170 回 (R3.10.11 日現在))

(2) 評価

取組への評価
「オンライン配信と文化芸術活動」(文化芸術活動等の各種動画配信事業)
(1) 事業の目的(設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性) <p>対象事業は、コロナ禍において、文化芸術活動や鑑賞の機会が著しく制限された中で、動画配信により文化芸術活動を継続し発信するとともに、市民に文化芸術に触れる機会を提供するものである。コロナ禍という想定しえない状況により、急激に広がり重要となった事業ではあるが、変動する社会状況の中においても、市文化芸術振興計画の基本目標である「市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」に取り組み、施策「市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供」の目標と合致した取組である。</p> <p>会場での鑑賞と配信のハイブリッド開催、ライブ配信とアーカイブ配信の併用などによりコロナ禍で音楽ホールや劇場に来られない市民への鑑賞機会の提供や、広く市民へ能楽等を紹介する無料動画の公開、ケーブルテレビと合わせ誰もが視聴できるYouTubeでのセミナーの実施など、いずれの事業も、コロナ禍で様々な制限が求められた中、インターネット等を用い、様々な文化芸術コンテンツの動画が配信されたことで、市民がさまざまな文化芸術に触れる機会が提供されていることから、事業目的を達成しており、高く評価できるものである。</p> <p>達成手段については、オンライン配信のメリットである、物理的に会場参加が難しい人への芸術文化にアクセスできる機会の提供、テロップやナレーションによる視聴者の便宜向上、視聴者のリアクションの反映など双方向コミュニケーションの充実、チケット代など相対的な経済的負担の軽減などを活かし、コロナ禍にも川崎市の文化の火を絶やすことなく展開できたことは、誠に意義がある取組であったと考える。</p> <p>一方で、視聴者数が社会状況やニーズに鑑み十分と言えない事業もあり、今後は動画の作成だけではなく、どうやって届けるか、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要である。</p>
(2) 文化芸術性(独創性、育成支援) <p>オンライン配信と一口にいても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫の必要性を感じる。</p> <p>フェスタサマーミュージアのライブ配信は、世界中の音楽祭が中止になる中、配信×有観客でのハイブリッド開催が「ザルツブルク音楽祭」と並び評価され、多くの新聞雑誌に取り上げられたり、キャラクターを使った親しみやすい能楽堂の紹介動画の作成や、オンライン配信に加えケーブルテレビを組み合わせたオンラインセミナーの開催など、事業ごとに工夫を凝らし独創性を高めている。</p> <p>演奏会や劇における出演者のコロナ禍での活動機会の創出、能楽紹介動画の配信による今後の鑑賞者育成に向けた取組、社会変容を踏まえた映像の活用について関係者の今後の活動に資するセミナーの配信など、文化芸術における様々な立場の関係者への支援や育成につながっている。</p> <p>舞台芸術において、オンライン映像配信事業化のノウハウの獲得は、感染症リスクが継続する状況下において、アーティストや事業者の活動機会を守ることにもつながる重要な取組と考える。</p> <p>収益性を求める事業から(能楽の)普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、目的にふさわしい体制、コンテンツが求められるので、それぞれに対応した助成の形も必要である。</p>

(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）

いずれの事業も、コロナ禍の中、多くの市民が外出せずに鑑賞できるように、オンライン等による動画配信を実施した。場所を選ばず視聴できること、また、オンライン配信のほうが比較的安価であることなど、多くの市民に文化芸術鑑賞を促しているといえる。

SNS 等で視聴者のリアクションの受け皿を設けることは、動画の配信のみならず、新たな市民参加の形として、双方向のコミュニケーション充実に資するものであると考える。

満足度としては、フェスタサマーミュージアでの視聴者アンケートでは「とてもよかった」「よかった」の割合が 98%であり、他の事業でも「劇場に行けなくて諦めていたから嬉しかった」等の感想が寄せられるなど、高評価である。ただし、非常に多くの視聴回数となる事業がある一方で、視聴者が多いとは言えない事業もあり、視聴者アンケートだけでなく、発信や広報の仕方にも問題はないかなどの視点も必要である。

周知の面では、他の動画に埋もれず視聴してもらうため、バックステージの紹介、出演者インタビューなどの配信コンテンツの充実、Twitter 等 SNS を活用した情報発信や事前プロモーション、ケーブルテレビ各局での放送などの工夫を各事業者で実施しており周知度を高めている。

動画を公開して終わりではなく、実際に多くの方に視聴してもらうことが望ましい。近年は若年層から高齢者まで youtube 等の潜在的視聴者層は非常に多く、コンテンツとしてのポテンシャルを活かすには、動画の作成・投稿だけではなく、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点があるとよい。

フェスタサマーミュージアのように SNS 等で視聴者のリアクションの受け皿を設けることは、双方向のコミュニケーション充実に資する。一方で、悪質・不正な投稿を防止する仕組み作りも不可欠である。

(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）

新型コロナウイルス感染症拡大による、市民への文化芸術に触れる機会の提供を目的とした取組であり、コロナ禍の中では引き続きオンライン配信のニーズがあることと、更にはオンライン配信による観覧が発展し、新たに有効な手法として普及していることから、コロナ収束後においても需要が見込まれるものと考えられ、本事業における一定の波及効果があったといえる。

オンライン配信を進めるにあたり Wi-Fi の強化など最低限のインフラの整備についても検討する必要がある。

連携・協働の面では、オーケストラ等の演者関係者やケーブルテレビ等の配信関係者との連携・協働により、動画の作成・配信をしていることは評価できる。

一方で、オーケストラ公演は演奏側にも肖像権や権利関係を守りたい意識もあり、アーカイブでサブスクリプション配信はできず現時点では期間限定の配信にとどまるなど、今後、オンライン配信の普及による演奏側の理解の変化にも注視する必要がある。

視聴券収入や補助金の活用により経費を補填している事業もあれば、職員の手作業で実施した事業もある。費用の効率化の観点では、素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があり、プロの手を借りるべき部分と SNS での発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>本事業は、コロナ禍において、文化芸術活動や鑑賞の機会が著しく制限された中で、動画配信により文化芸術活動を継続し発信するとともに、市民に文化芸術に触れる機会を提供するものである。変動する社会状況の中においても、市文化芸術振興計画の基本目標である「市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」に取り組み、施策「市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供」を具現化している取組であり、視聴者の高い満足度などを含め、事業目的を達成しており、高く評価できるものである。コロナ禍にも川崎市の文化の火を絶やすことなく展開できたことは、誠に意義がある取組であったと評価できる。</p> <p>一方で、オンライン配信の普及により、これまでの実際の会場への訪問による飲食などでの市への還元等の効果や川崎市の存在が薄れる恐れもあり、配信の中で川崎市のプレゼンスを高めていくための工夫も必要である。</p> <p>なお、今回の対象事業ではないが、市民ミュージアムにおける被災収蔵品のレスキュー活動についても、被災直後から現在に至るまでの活動の記録を映像化しオンライン配信しており、活動の課題や得られた知見を公開し、広く共有するとともに、次世代への継承につなげる取組として評価できる。</p>	
<p>提 言</p> <p>オンライン配信と一口にいても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫が必要である。また、収益性を求める事業から普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、それにふさわしい体制、コンテンツが必要と考える。</p> <p>動画を作成・投稿するだけではなく、より多くの芸術文化の担い手に対し情報が届くよう、広報媒体や手段の更なる改善が必要であるとともに、様々なコンテンツを集め発信できる共通の場を作りアーカイブとして残していくなど、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要と考える。</p> <p>オンライン配信は実際の鑑賞の代替だけではなく、多くの利点と、普遍的な価値を備えており、コロナ終息後も、継続が望ましい事業もあると考える。</p> <p>素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることから、プロの手を借りるべき部分と SNS での発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。特にプロの手による本格的な文化芸術コンテンツの配信においては、現時点では売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあることから、今後、公的予算を使った映像配信を事業化する際には、権利関係の整理なども含め、費用対効果の面でも十分な検討を行う必要があると考える。</p>	

令和3年度文化アセスメント実施結果報告書
2022（令和4）年12月

川崎市文化芸術振興会議

（事務局） 川崎市市民文化局市民文化振興室
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2
電話 044-200-2029
FAX 044-200-3248